

青森市匠の職人（令和二年度受賞）

いちかわ
市川

あいこ
愛子（和服仕立職）

一針一針、想いを込めて



問い合わせ先 仕立屋 針針
〒030-0853
青森市金沢三丁目2番1号
TEL 017-735-7665

取材レポート

19歳の頃から東京で和裁の修行を積んだ市川さんは、昭和57年、同僚からの誘いを受け、和服仕立職人として青森へやってきました。以後、今日に至るまで40年近くに渡り、市内で着物の仕立や修復に従事してきました。

近年では、和服の需要が減少しているうえ、海外の安価な製品やサービスの競争が激しくなっており、和服仕立業が置かれている状況はなかなか厳しいとのこと。

しかし市川さんの仕立屋針針「ちくちく」は、「針一針想いを込めて、着る方を想像しながら丁寧に縫い上げており、その技能の高さから、伝統芸能や演劇、相撲界など全国から受注があります。

また、これまでに数多くの若手技能者を育成してきており、日本の伝統文化である和裁に関する高い技術を次世代へ伝えていくことにも熱心です。

保存状態などによって様々な条件が変わるため、全く同じ生地というものはないそうで、それでも常にお客様にとってベストな完成品を作り続けるためには多くの経験と鍛錬、そして工夫が必要になるとのこと。

どんなオーダーでも、生地自体が損傷していない限りは基本的に断らないという市川さん。「一番のやりがいはいはやり、自分たちが仕立てた着物を着たお客様たちからのお礼のお便りだそう。

故郷は違うものの、青森が大好きだと言う市川さん。ずっと青森で和裁を続けていきたいと話します。モットーは、「頑固おやじに負けるな」仕事には職人気質でありながら、お客様には細やかな気配りを見せる匠の職人が、伝統ある着物文化を守り伝えま

す。

ミニチュア版着物
小さくても構造は
同じであるため、
高度な技術が必要

